

Title	雑報
Author(s)	
Citation	地球 (1936), 26(2): 149-154
Issue Date	1936-08-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/184583
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

いづれも不足する。満洲の鐵も品位不良だ。だから外國貿易はいつも輸入超過で、毎年平均三億六千五百萬圓の入超過、國際支拂は毎年一億二百六十萬圓に上り、一八七〇年以來二十五億の外債を募集した。日本の工業はさう發展はしないだらう。しかし日本の大工業產出の紡績や器械などの外に雜貨がある、其の輸出は西歐風の工場工業でなく、むしろ家内工業の發展を助長すると共に、日本の外國貿易の確固たる發展をもたらすであらうとのべてゐる。思ふに日本工業の特色たる小企業の利益について、更らに深刻な批判が加へらるべきではなからうか。一九二九年迄の統計で、日本の工業は前途悲觀といつてしまふのも正常な見解でないと同時に、日本産業の分散と小企業の發展については更らに細説し吟味されてはなるまい。(藤田)

○日本國勢圖會

昭和十年版 矢野恒太、白崎彦一共編
國勢社發行 定價一圓

前二書よりも日本の經濟地理を明快に説明指導してゐるのは矢野氏の日本國勢圖會である。彼此參照することによつて外人の見た日本の産業と、日本人の自ら作つた産業概觀とがいかにかがらうかといふことが明になる、定價一圓は廉賣である。我等は國勢社に感謝しなくてはならぬ。前の方は讀まないでも、こちらは毎年必讀をすゝめる。(藤田)

○日滿支經濟論

猪谷善一著 言海書房發行 定價二圓
日滿支三國の經濟關係を論じたものである。滿洲農業の危

機、農村匡救の國情等は注意してよむべき要點であると信じ複雑な三國關係を通覽する良い參考書であることを認める。

○奈良觀光市街地圖

藤田博介著 大和史蹟研究會發行 定價三十錢

新聞紙二倍大の四版に奈良の鳥瞰圖をつくつたもので、奈良師範の堀井君の助力になつた、裏面に寫眞や、觀光の案内記がある。(藤田)

雜 報

○神戸市奥平野の鏡石と斷層

神戸市奥平野梅元町

の北部、角閃花崗岩と奥平野の低地との境界に於て相當大規模なる鏡石がある。面は多少風化せるも極めて平滑に磨かれ面全部に亘りて擦痕がある。面は正しく磁針の東西に走り、南方に向ひて六十度の傾斜を有する。平面の露出部は東西約六米、傾斜に沿ひて約五米であつて、東端は崩壊してゐる。西端は約四十糎の厚さを有する斷層粘土らしきものが保存さる。

この鏡石から約二—三十米位東は瀬谷(一萬分ノ一地形圖中の瀬谷は誤記)と呼ぶ小溪で、千鳥ヶ瀧といふ瀑布を懸ける。この瀧の下に至るまで鏡石は追跡し得るのである。

千鳥ヶ瀧は二段となり、下段は高さ六米で鏡石の面から十三米北に退き、上段は高さ二〇米、下段の瀧頭より七米許北に退く。つまり斷層の生成後約二十米許り瀧は後退した譯である。千鳥ヶ瀧の東方には東西に走る鏡石の面があつて南に七〇度の傾斜を有し、表面は平滑であるが苔むして居る。この面の大半は花崗岩破片を粘土で膠着したる斷層角礫質粘土で覆はれ、その厚さ二米以内位ある。更に東方二十米位に角閃花崗岩の表面に約二尺の青粘土を主とする花崗岩の角礫があつて滑面は東西に走り南に六〇度の傾斜である。この部は神戸市奥平野淨水場の西の角に當る。それより一〇米許東方右淨水場構内の山麓には量は少ないが炭酸冷泉の湧出地がある。

更に梅元町の北の鏡石を西に追跡すれば、暫くは住宅地で踏査不能となるが、五宮町五宮社の北の山麓の路傍の東側に於て東西に走つて南に四〇度の傾斜を有する滑面があり、西側に於ては北七〇度東の方向の滑面があつて南方に五〇度の傾斜を示して居る。この部分に於ては滑面の上部は崖錐に覆はれて居るが、新道路の開鑿によつて道路の兩側に露出するに至つたものである。

以上の鏡石の露出面と斷層角礫とは三百米に亘るものであるが更に東西に延長するが如く、東方に於ては奥平野淨水場を過ぎ、再度谷川底の炭酸鐵泉浸潤地を経て、武徳殿の北を諏訪山方面に向ふ。西方に於ては五宮社の北方より、少しく

南西の方向をとり祥福寺境内を過ぎ、その西方湧泉地附近で北三〇度西の一大斷層に截られて、南方に轉位し、有馬道祇園社の南を湊山町天王川の谷に至り更に西方に向ふ。天王川底に於ては炭酸泉の湧出を見、北六〇—七〇度、南六〇度の龜裂があつて攝氏二九度及び二七度の溫泉を有する。從來冷泉なるを最近一〇〇〇餘尺試錐の結果、現今の増温を見たといふ。

上記の斷層線は神戸市北方の花崗岩地と第四紀低地とを分つ一大斷層線であつて、地形的にも極めて明瞭、且つ重要なものである。巨智部博士は地學雜誌雜錄（第九卷第九八號明治三十年）に奥平野村久鬼家別邸内千鳥ヶ瀧の傍に巾三尺の粘土脈ありて斷層によつて生ぜるならむと記載さる。奥平野村は今も神戸市内、久鬼家は須磨に移轉、巨智部氏は既に亡し、氏の粘土脈と筆者の鏡石、斷層粘土等と同一のものなりや否やは確むるによしもない。然るに地形、位置等よりして或は多分同一のものならんと推定さる。鏡石につきては前記地學雜誌には何等記載されて居らぬ。（上治寅次郎報）

○赤峰の商業

滿洲事變後、熱河省が滿洲國領土となつたために長城線各所に滿、支國境税關が出来て輸出入が防遏され、北支と同一國內經濟圈にあつた赤峰の對外貿易關係は急に一變した。従前はその産物は天津及び北京に輸出され、内蒙古の必要な物品は天津又は北京から移入したのが、パツタリ止んで赤峰からの貿易は奉天、營口、錦州方面に移動し

移入商品も亦北支からは入らないで、全部日本商品となつて奉天方面から入るやうになつた。そこで赤峰地方物産の大宗たる毛皮類も奉天、營口にむけられ、其背後地たる林西、經棚、圍場、寧城、建平其他奥地との純然たる陸上中繼貿易市場となつてしまつた。移入品の七割までは奉天から一割六分は營口からで、茶、砂糖、洋麵、染料をはじめ安東の木材、鐵嶺の白米、大連のビール、錦州の石油、穀類、蔴席、撫順の重油北票の石炭等が入つて前記の後背地の需用に應じ、毛皮類、畜類が特産物として奉天へ移出するもの最も多く營口、錦州にも出で、錦州から天津に出るが、極少量が古北口をへて北平に仕向けられる。蒙鹽は西烏珠穆沁、ダブスノールから入つてくる。鐵道開通後牛馬羊豚の生畜も増加し本邦毛皮商人も追々この方面に着目しはじめたかくて昭和十年度移出六百萬圓に上り、移入も一千百五十萬圓に近づきこれを前年度に比べて移出が二百萬圓以上増加するに至つた。

○マルタ島へ本邦品の輸入

マルタ島は英國輸入を

保護するため特惠關稅及割當制が實施されて既に一年有餘になつたが、其實際的效果はマルタ島の歳入の増加となつた。

その輸入をみると

	一九三三年	一九三四年
英國	一、〇〇一、七七七磅	九五九、五五一
英領	一九六、一七一	二三一、七四三
其他各國	二、六六九、九〇〇	二、二七〇、六七一

即ち一九三四年の英國からの輸入は四二、二二六磅の減少で特惠關稅は反對的效果をもたらしした。こゝに注目すべきは日本品の一九三四年は前年に比し二四、七三一磅を増加して十四萬磅に上つたことである。綿織物と人絹織物が主で其以外の雜貨の進出が著しい。織物の方は輸入許可量十萬碼といふ制限があるからである。魚類罐詰、果物罐詰、ジャム、隱元豆、茶、野蔬罐詰をはじめ男女小兒用靴、裝身用小間物、帽子、ゴム製品、刷毛類、化學藥品、時計、陶磁器、電氣器具、玩具、皮革、樂器、双物鐵器類、自動車附屬品、塗料、染料、喫烟用具、石鹼、文房具、織物原料、袍類、綿製品、ラデオセット、木製品、靴下、絹織物、化粧品、器具類等あらゆる品目に及び躍進の著しいものは、魚の罐詰、ゴム靴、陶磁器衣服、雜品である。過去五ヶ年間に非常な進出で一九三〇年に一萬六千五百磅の輸入が一九三四年には十四萬磅、八倍以上の發展となつた。

この國へは獨逸や伊太利、和蘭といふ地理的に經濟的に日本よりも遙に有利な競争國がある。且これらの國の船は殆ど毎日やつてくるにも不拘、獨逸は十六萬磅、イタリーは三十三萬磅、オランダは十萬磅で、日本の進出に太刀打が出来ない様子である。マルタは地中海の小島であるが、この事實は日本品の伸張力を下するに足るものと信じる。

○北鮮の開拓

鴨綠豆滿二江の上流地帯たる平安北道の江界慈城厚昌の三郡と咸鏡道の長津、豐山、三水及び甲山と

茂山合せて八郡の地は所謂蓋馬高原の稗に叶へる山地で廣袤實に二千方里、其中二百十六町歩は國有林野、千舌斧鉞を加へられざる大森林であるが交通不便のまゝに老齡過熟、そこで火田民が蛭集してくるので、年々廣大な美林が燒燼する所である。そこでこの大森林の保護増殖と開伐をはかると共に、その跡地の美肥の野原を、農地と牧畜地に分類し火田民を定着させ、更に積極的に移民を收容し、亞麻、甜菜、玉蜀黍、馬鈴薯、大麻、ホップ、燕麥、小麥、粟、大小豆、ライ麥、薄荷、除蟲菊等を栽培して工業原料となし一面綿羊を増殖して羊毛國策に資せんとするのが、實にこの北鮮の開拓事業で豫算二千六百八十萬圓を以て昭和七年度から十五ヶ年の期間にその開發にかゝつた。第一に數條の道路開鑿をはかり、林産鑛産を開くための満浦線及惠山鎮線柘植線を計畫した。そこで只今では自動車路も十數本できるやうになり鐵道では今の惠山鎮線がその動脈となつて(工事進行中)咸鏡北道吉州から合水、白岩をへて咸鏡南道の惠山鎮鴨綠江岸に達し、合水から咸北茂山への白茂線(柘植線)及び平安南道の平壤から順川をへて平安北道の満浦鎮に至る鐵道を企畫してゐる。合水から茂山の鐵道は森林鐵道の名がある。もし出来れば千舌斧鉞の入らない大森林は我國内の木材需要の全部を引うけても三十年はつゞくといはれる。茂山には鐵鑛がある、牧畜地としての牧草がよい。

満浦鎮も鴨綠江岸で、いづれは吉林、海龍、奉天に聯絡す

る鐵道である。始政以來朝鮮の秃山も大に綠化されたが北鮮は原から禿てゐないところで八郡の面積三百十萬町歩の八割までの林野である。目下白頭山を中心として多くの森林鐵道(九線)を山元から派出し其長さ六百米、軌道は三十二軒を完成した。この樹海から出る材は、杉、松、(タウヒ、モミ)、紅松、落葉松、軸木としてのシナの木シラカンバ等であるが、杉松は安價で鉋掛が容易なために使用がひろい、紅松、落葉松いづれも品質がよい。ついで火田民を指導し約二十萬一千二百人の人口を自作農たらしめんことに盡力し肥料の供給と副業の助成にあたり、十萬町歩を火田民に與へ約二十萬町歩は一般に開放することになつた。地質は複雑であるが地味はよい。氣候は冬期零下三十五度、夏は最高二十四度で北歐の氣候に類するから内地で出来ない燕麥や亞麻や甜菜等がこゝから産出する可能性が多い。白頭山に近い普天堡の地に農事試驗場北鮮支場があつて科學的に研究をつゞけてゐる。有畜農業に最適だから、この方面に指導をする筈である。さうして綿羊については濠洲の羊毛依存といふ日本の羊毛工業の弱點を救ふために、朝鮮の望を勵する所であることは申迄もない。朝鮮では全農家一戸當り五頭の綿羊飼育を普及せんと計畫し補助金を支出せんとしてゐるのである。

○朝鮮の天然記念物

京畿道抱川郡蘇屹面の光陵森林にキタタキ、この鳥は對馬と朝鮮とのみに居るもの、對馬では絶滅に近づいてきてゐる。普通のカラス位の大きさの鳥で黒

色、腹は純白で黄味がかり、雄は頭に緋色の毛冠をもつ、光陵は福壽草や櫻草、山菜の野生地でもある。

忠清北道鎮川郡梨月面のマナヅル、毎年数百羽のマナヅルが十月末飛來し翌年一月に至る。三月頃に北方に去り四月には見られなくなる。

忠清南道の唐津、黃海道延安、白川なども数百羽の丹頂鶴が渡來する。又延安にはカウノトリが繁殖するのて有名である。

慶尙南道陝川及び昌寧の白鳥渡來地、歐亞の北部地方に分布し、冬期には地中海、中央アジア、支那及本邦にくる。(青森縣小湊海岸にくる) 毎年十一月多數の白鳥が池面にうく。

平安北道宣川郡南面蝦島のウミネコ、美知島、カラシラサギの繁殖地。

ウミネコは内地では青森縣の蕪島と島根縣日御碕鰺島がその繁殖地である。

次に植物では京城通義洞の白松、(北支那原産)で樹齡數百年をへてゐる。忠清北道の鎮川ウチハノキとコノデカシハ、全羅南道濟州島舊左面のハマオモト自生地がある。全羅南道濟州島右面森島には、オホタニワタリが自生する熱帶植物である。

最後に平壤南山町中學校庭の化石林(松柏科)で珠羅紀中葉又は初葉のものであらう。

○滿洲への日本移民

第一次移民は三江省樺川縣第六

區孟家崗の永豐鎮に送られた。佳木斯の南々東で、黑土地帶の沃野の一部をしめ、二萬町歩、其本部を彌榮村に置いた。彌榮村即ち永豐鎮で、その周圍に秋田、茨城、栃木、群馬、新潟、長野、岩手、青森、宮城、福島、山形、北大營の十二部落がある。こゝは前住民稀で、火田農地であるが、交通は不便で、ハルビンから二晝夜を航行し佳木斯に上陸してから二日間陸行しなくてはならぬ、しかし九年十一月永豐鎮まで佳木斯から國道が完成し今又鐵道が通じることになった。(寧北佳木斯線)から出來たら便利となる。昭和七年に拓務省が計畫して三十歳前後の男子を選抜し約五百名を送つたが、十月十四日移民團が佳木斯沖に到着した夜、市は三千の匪賊に襲はれたので十五日上陸して屯墾第一大隊として吉林軍に編入され市の保安にあたつた。八年の三月から農場に入つて農事をやつたが匪襲に逢つて戦死するものも出來た。やがて家も出來て家族三十名を呼んだ。ついで昭和九年三月又々依蘭事件が起つて全員警備についたから農業は失敗に終つた。僅に四百町歩に播種したに過ぎず。しかし九年の終には七十餘戸の家屋が出來、昭和十年には第三年目となつて地方の治安も維持され家も出來農業もすみ人口五百九十三名となつた。中途脱退者約三分一、十數名戦死したが、現在では落ちついてきてゐる。冬期にホームスパンをやつてゐるし、味噌や醬油や漬物等が自給せられる。小學校も彌榮村に出來、農業畜産の見込もつきかけてゐる。

第二次移植民は三江省依蘭縣七虎力河の兩岸で永豐鎮から八里、南々西にあたる面積一萬二千町歩の中、開墾可能地八千町、昭和八年七月入植四八二名同九年と十年に九名合計四九一人である。こゝも初年に匪賊の襲撃にあひ十名の戦死があつた。八年十月に千振屯墾團を組織し、九年六月から家屋を作つた、現在二百七十九名の團員が主力である。昭和十年にはトラクターを使用して開墾をはかり、今は四千三百町を開いた。第三次移民は濱江省綏化縣の王榮廟附近で、山形縣で、訓練された移住者二百七名が康德元年十月入植し、康德

二年から事業をはじめた。大なる匪賊がなくなつたので、第一次及び第二次に比して成績佳良に向ひ、着々として開墾に従つてゐる。第四次は三江省密山縣城子河及哈達河に五百戸をつくる計畫で先遣隊九十六名が康德二年十月に入植し、直ちに指導員の教導に従つて開墾と家屋建設に従事した。城子河地方の治安はよく維持されてゐるから本隊が入植したならばこの地方も亦いよ／＼立派になつてゆくであらう。(三江省省政彙覽摘錄)

○日本庭園史圖鑑

重森三珍著 有光社出版 特價四圓八十錢

日本に於ける庭園發達史の研究家重森氏の努力は報ひられて圖鑑全二十四卷豫約百圓といふ美はしい大本の一本が出た。今度手にしたのは桃山時代の部であつて親切な解説があるが、その庭園の見取圖と寫眞とは誠に立派な印刷である。本書集むる所十三圖版で玉鳳院、養壽寺、南宗寺、實相庵、信正院、松尾神社、來迎寺、二條離宮、光澤院、三寶院、勸持院、寶藏坊、妙喜庵いづれも京都を中心として近縣にわたる桃山時代の名苑である、文獻資料もあつて、我等の愛好する庭園といふものが、いかに絢爛の美を極め、幽邃の趣をしめすかを如實に示めすのは何よりもうれしい。著者の云ふ通りいかにも日本での最初の庭園圖の出版である。題目の庭園史といふは史的發達に従つた圖鑑といふ意味であるらしいが、庭園圖鑑といふ方がよくはなかつたかと思ふ。(藤田)